支え、支えられて…

『グループホーム』とは、『認知症対応型共同生活介護』とも言われます。

ここでは「認知症」の診断を受けた方を対象に、認知症でありながらも家庭的な雰囲気の中で落ち着いて生活できるように取り組んでいます。

平成25年4月に愛全園でも本館3階で9名の利用者の方を迎えてグループホームがスタートしました。足羽福祉会の老人介護部門として初めてのことです。

新たな取り組みの中での利用者の方の様子をご紹介します。

ところ変われば

今まで一人暮らしや二人暮らしだった利用者の方は、グループホームで9名と暮らし始めたことで、いろいろな変化が見られました。

Aさんは、ご主人に先立たれて一人暮らしをしてきた方でした。一人になってからは家に引きこもりがちになり、あまり笑わなくなっていました。

そんなAさんがグループホームで暮らし始めると、自分からご飯やおかずを盛ったり、洗濯物を配ったりと人のお世話をし始め、自然と笑顔が見られるようになりました。もともと畑仕事が好きな方でしたから、園で育てていたアサガオの水やりや畑の世話など、外にも出るようになりました。

そんな様子を見て娘さんは「こんな笑顔見たことない！」と驚き、喜んでいました。

Bさんは、奥さんの手伝いや家事は一切しないという亭主関白な方でした。

そんなBさんがグループホームで暮らし始めると、周りの方が手伝っている様子を見て、自分からおぼんや食事を取りに行くなど、すすんで

手伝うようになりました。

Bさんの奥さんは「場所が変われば、人は変わるんですね」と驚いていました。

また、こんなこともありました。

お世話好きのCさんは、杖をついた利用者の方が歩き出したとき、さっと手を貸してくださいました。また怒って大きな声を出しているDさんに「どうしたの」と声をかけてくださいました。

職員の言葉にはなかなか耳を傾けようとしないDさんでしたが、Cさんが声をかけたことで「話を聞いてもらえた」と感じ、気持ちが少しずつ穏やかになり、職員の話も聞いてくださるようになりました。

Dさんにとって、Cさんの声かけが大きな力となっていました。

職員も変わった

初めは「穏やかな生活を送ってほしい、その役に立ちたい」と思っていました。

しかし、お互いに助け合い、協力しながら生活している利用者の方の姿を見て「できることはたくさんあるんだな」「実は自分たちも利用者の方に支えられているんだな」と気づきました。

また「今できることを活かして生活するためには、どうすればいいだろう」と自然と考えるようになりました。

これから

利用者の方は自宅から愛全園に生活の場を移してくださいました。環境が変わるという不安と期待に応えられるように、さらには『ここに来てよかった』と思っていただけるように、これからも生活のお手伝いをさせていただきたいと思います。

一年目のグループホームですが、今後やりたいことがたくさんあります。それを一つでも多く、実現につなげられるように努めていきたいと思います。

利用者の方が作ったお雛さまです。

一つひとつ、自分の名前とご主人や奥さんの名前を書いて飾られていました。

見ているだけで心がほっこりしました。

これからも、利用者の方の《相手を支えよう》とする想いを大事にしていきます。

職員も含めてお互いにできることは支え合って、共同生活ができるようにしていきます。

グループホーム主任　浅川なお美